

税金によって家族になれる

矢板市立片岡中学校 3年 松岡 芽愛

今回経験したことは、私の税金のイメージをマイナスからプラスに変える出来事でした。

「今度、妹が来るよ!!」そう言われたのは一月の下旬でした。親は里親をやっていますが、実際に里子が来るのは初めてでした。その時の心情を未だに鮮明に覚えています。もちろん嬉しい気持ちの反面、「実際に児童相談所から来る子はどんな子だろう。」「血の繋がりががない子と一緒に暮らすのはどうなのかな。」と若干、負の方向に近い疑問もありました。二月上旬、児童相談所から家へ妹が来ました。その妹は一歳になったばかりでまだ小さかったです。最初はすこしぎこちなかったのですがすぐ慣れました。

妹と暮らし始めて少したった頃、ふと疑問が浮かびました。「私の家はお金に余裕があるとはいえないのにどうして親は里親ができるのだろう。」これから十数年も一緒にいるのに負担できるはずがないと思いました。だから私は親に聞いてみました。すると母が、「そのお金は国からもらった税金で補われているんだよ。」と言いました。私はそのことを聞いた途端、こんなところにも税金が使われているんだと驚きました。調べてみたところ、里親手当から出ているそうです。

私は税金の使い道について学校の租税教室などで知っていますが、なかなかいいイメージが湧きませんでした。公共のものは税金で成り立っていますが、税金によってつくられている実感が湧きませんでした。でも妹が来てから、税金によって私たち家族は支えられているんだなと驚きました。そしてこの経験を通して税金のイメージがマイナスからプラスに変わりました。

妹のように、家族になるということは当たり前の幸せではないことに気付かされました。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも気付かされました。「税金は高くなる」というニュースをよく耳にし、私にとって税金はマイナスなイメージでしたが、税金は私たちの生活を支えてくれている「なくてはならない存在」だと学びました。報道するときには、「税金が高くなって生活が苦しくなる」という悪い面を強調するのではなく、「世の中をよくしていくものである」という使い道を強調するべきだと思います。国は「使い道」を国民が納得するようなものにしていく責任が非常に重いとも感じました。最後に今回の経験を通して、税金によって家族になれる子がたくさんいることをみんなに知ってほしいなと思いました。現在少子高齢化が進み子供の数は年々減少していますが、児童相談所に入所する子は年々増えています。その中で一人でも多くの子に家族ができることを願っています。また、税金は家族になれる一つの手段にも使われていることをたくさんの人に、知ってほしいです。